

特集 その後どのように暮らしていますか？

## 旅で訪れた場所のように



特集 その後どのように暮らしていますか？

# 旅で訪れた場所のように

A 邸(ご夫婦2人) 木造2階建て 設計:アトリエ・アンド・アイ



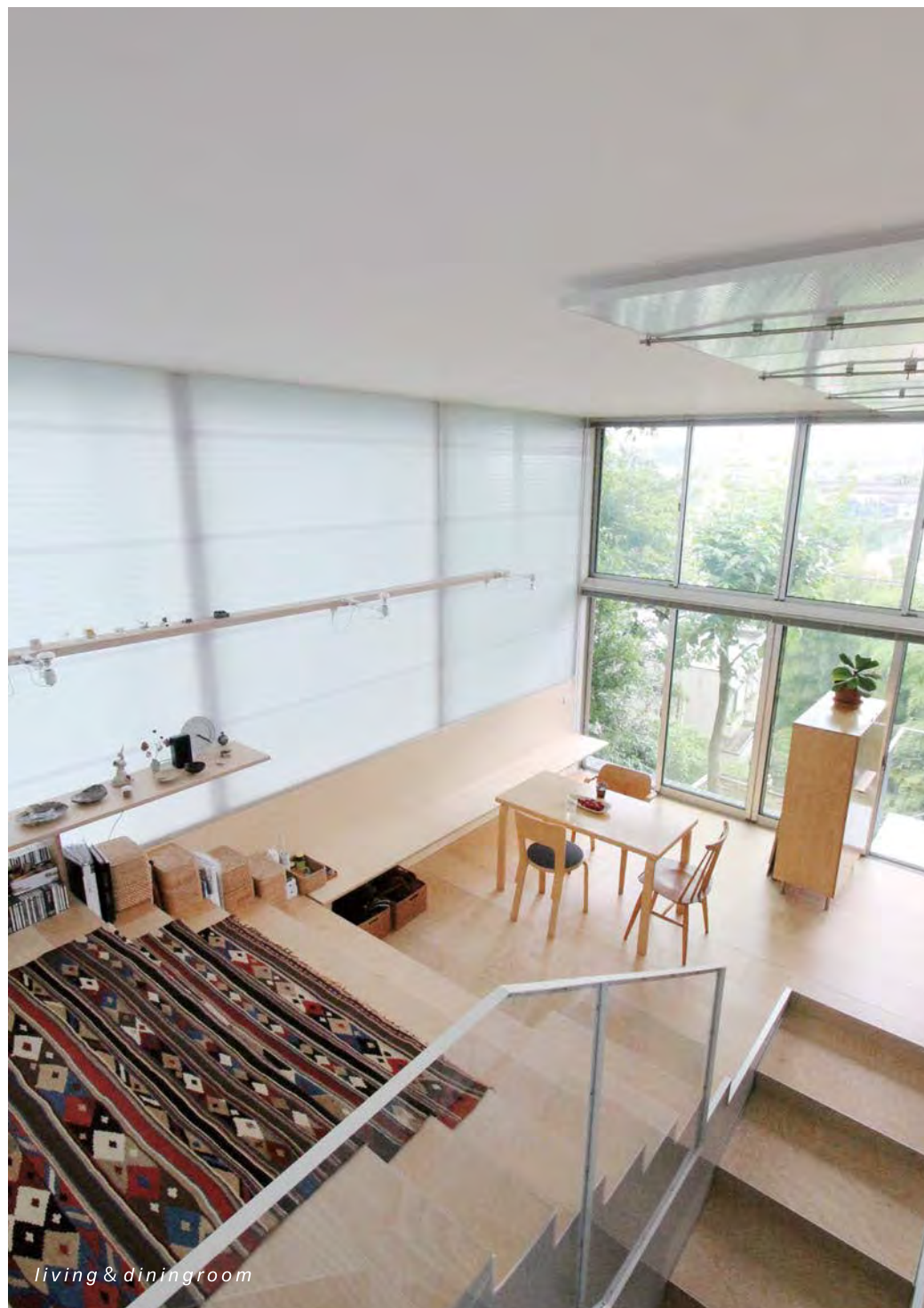
## 1 家づくりストーリー

取材に訪れたのはちょうど梅雨の時期。紫陽花から雨のしずくがしたたる様子を眺めながら小径を歩いていくと、そこにA様のお住まいはありました。「こんにちは」。チャイムを鳴らすとご夫婦が笑顔で迎えてくださいました。

以前は団地住まいだったA様。室内の広さや結露が気になっていたこともあり、そろそろ……と家づくりを考えはじめました。設計はアトリエ・アンド・アイさん。プランはほとんどおまか

せでしたが、その中でもご主人は『景色が見渡せる屋上』、庭しごとが大好きな奥さまは『キッチンからすぐ庭へおりられる階段』を希望されました。

この場所を見つけ、家を建てる前からトマトなどの野菜を育てにちよくちよくこへ来ていたという奥さま。ご近所さんとも仲良くなり、この土地での植物の育て方を教えてもらったり、野菜を分けて頂いたりしたのだとか。出会った土地と人がつながった素敵なエピソードです。





## 2 旅先に訪れたような……

玄関から続くゆるやかな勾配の階段を登っていくと、壁一面に大きな窓のある空間が広がっています。窓からの景色、絶景です。さらに寝室、ダイニング、リビング、ワークスペース……とスキップフロ

アで各部屋がつながり、それぞれが仕切られることなく螺旋状に続いているのです。階段をのぼるたびに、まるで外国の山岳都市の街並みの中にあるようなトリップ感!……胸が高まります。壁にはほんのり透け感のあるポリカーボネート。夜になると室内からぼんやりと灯りがもれ、外から見たときにと

ても綺麗に見えるそうです。内も外も両方楽しめるお住まい。念願の家を建てたA様ご夫婦は「ゆったりとした空間で過ごすようになり気持ちにも余裕ができました。あとは毎日家に帰ると旅に来たような気分になるのも嬉しいです」と新しい住まいでの暮らしをお二人で楽しまれている様子でした。





奥のパントリーにはちょっぴり階段

### 3 キッチン

自宅で作るパンもあるという奥さま。「キッチンが広がったので、生地もどーんとおもいきり広げられるのが良いです」と笑顔に。以前の家で使っていたMUJIのラックもぴったり収まるように設計されていました。キッチン奥のパントリーは階段状になっていて、食品や

小物を置くスペースとしても便利。「段差になっているところに足をかけて棚の上のものをさがしたり、お料理している途中でちょっと一息つきたいときに座れるのが嬉しいです」と奥さま。他にもオートミルやコーヒーマーカー、可愛い紅茶の缶が並んでいて、ティータイムが待ち遠しくなるようなキッチンです。

## 4

### ワークスペース

リビングダイニングを見下ろせる仕事場。必要に応じて下の部分を閉じることもできます。壁側にあるハンス・J・ウェグナーの白いソファは、奥さまが一人暮らしをされていた頃からずっと大事に使っている家具です。長く使っているのにとっても綺麗なソファ。使い手の丁寧さ・気持ちに家具も応えているかのようでした。



箱型のフォルムに愛着を感じずにはいられない「ハッセルブラッド」。



色々な陶器のカケラどうしを金継ぎした、コラージュのようなアート作品も!

## 5 それぞれの趣味

骨董市に足を運んで、陶器のカケラを集めている奥さま。室内ではカケラをそのまま並べたり、ご自身で金継ぎした作品が飾られています。ご主人はライカとハッセルブラッドのカメラで、出かけた時に写真を撮って楽しんで、最近では近所の猫をパシャリと。大切にされているカメラはまさに宝物です。

### 取材後記

住みはじめて間もないA様ご夫婦。北側の大きな窓から見えるモミジが、ちょうど新芽を出していて「モミジの新芽ってピンク色なんだ!」と、この家だからこそ発見と感動もあったり。「この家では“夏・秋・冬”をまだ体験していないので今からとても楽しみです」とA様。これからまた、たくさんの新しい発見がありそうです。



「楽しい貴重なお時間をありがとうございました!」

取材:伊藤/吉川 取材後記はコチラ→ <http://ameblo.jp/ainohablog/>



特集

8

人のケンチクカ



椿千賀子  
C.Tsubaki



平間千恵子  
C.Hirama



強谷陽  
A.Suneya



島田貴史  
T.Shimada



徳田英和  
H.Tokuda



橋垣史子  
F.Hashigaki



西尾春美  
H.Nishio



市川淳  
A.Ichikawa

ケンチクカ  
8人の個性豊かな建築家

「あいらぼ」

「あいらぼ」は、相羽建設に関わりのある建築家8人が  
2012年に結成したグループです。  
作風・人柄・考え方がとても魅力的な人たちです。

「建築家ってちょっと敷居が高そう…」  
と感じている方も多いかもかもしれません。  
「建築家をもっと身近に感じてほしい」

そんな思いから、  
建築家と一緒に暮らしを学ぶイベントや、  
ご近所同士で楽しい会話が生まれるまちづくりまで、  
みなさんの「暮らし」に寄り添った活動をしています。



# 8人のつくる家。

どんな家、どんな暮らしにしたいか、じっくりと時間をかけて住み手の生活にピッタリと合う住まいを一緒に考えてくれる建築家たち。

家事動線や、家族とのほどよい距離感、心地よく感じる温度など、目に見えないところまで丁寧に設計された家は、住み続けるごとに愛着が増します。



1	2
	3
4	7
5	6
	8

1. Hidamariハウス (しまだ設計室/西川公朗撮影)
2. 立川の家 (いろは設計室)
3. マルティータウン久枝 (市川設計)
4. 二階堂の家 (スネヤキアキ建築設計室)
5. 寒川の家 (ツバキハウス/上田明撮影)
6. 雑木林の家 (にしお設計室)
7. 河津の家 (徳田英和設計事務所)
8. 大門町の家 (スモールスペース/村角創一撮影)





## 「あいらほ」のつくるまち。

朝、家を出て「おはよう！」とご近所さんと爽やかに挨拶を交わしたり、休みの日には、お隣の家族同士で集まって庭にピザ釜をつくったり。昔の日本には当たり前にあった人と人とのつながりがここにはあります。

そこで暮らす人たちが自然と歩み寄れる心地よい距離感や、外観や植栽のバランスなど、いろいろな暮らし方を見て考えてきた建築家ならではの視点で、まちづくりを提案しています。

多摩地域からはじまったこのまちづくりは、今では全国に広がりはじめています。



写真：ソーラータウン多摩湖町（設計：スネアキア建築設計室・市川設計）



■ 埼玉県行田市のまちづくり  
街並みの模型



■ 愛媛県松山市のまちづくり  
マルチタウンス枝のロックガーデン



あいらぼ8人に聞く、

# 「家づくりで大切にしていること」



ツバキハウス  
**椿 千賀子**

1962年東京生まれ。  
異業種から転職し、丸谷博男  
+エーアンドエーにて主にOM  
ソーラー住宅の設計に従事し  
独立。2005年「ツバキハウス」  
開設。

## 「似合う家」

街を歩いていて素敵だと思う家。それはある程度の  
時間が経っていて丁寧な暮らしが見える家。洗練された  
デザインのものもよいのですが、偶然も手伝ってできた  
景色・普通なだけどなんか素敵、と思える家に魅力  
を感じます。季節を感じ暮らすことを実感できる、住まう人に  
似合う家を造りたい。そして家づくりのプロセスも  
大事にしたいと思っています。



徳田英和設計事務所  
**徳田 英和**

1969年名古屋生まれ。  
名城大学建築学科卒業後、石  
田信男設計事務所にてソーラ  
ー住宅の設計に従事し、その後  
OM研究所にてOMソーラー  
の社屋「地球のたまご」の設計  
監理を担当。2004年「徳田英和  
設計事務所」開設。

## 「ずっと大切にしたい家を」

ムクの木や土、紙などの自然素材をいかし、これまでに  
受け継がれてきた知恵や文化を大切にしながら、  
日本の風土や気候にあう家や暮らしをつくっています。  
風や光などの自然や庭の木々、周囲の景色などをうまく  
取り入れ、気持ちがよく、環境にも人にもやさしい家  
になるように、自然の心地よさや美しさを感じられる家  
をつくりたいと考えています。

## 「生活の場を考える」

家族の日常の、おだやかな生活の状況を思い浮かべ、  
その生活の場を作るべく、プラン、納まり、仕上げ、設備など  
を考えています。土地のもつ風土や、日本の古からの風景  
に学んだことを、現代の家にも取り入れていきたいと思っ  
ています。環境になじみ、周囲にも心地よさを感じさせる  
家をめざしています。



スモールスペース  
**平間 千恵子**

1966年東京生まれ。  
中央工学校建築設計科卒業。  
工務店設計部にて主に木造住  
宅の設計監理を行う。2006年ス  
モールスペース1級建築士事務  
所開設。

## 「居心地のいい場所のある家」

住まい手にとって愛着のもてる家とは、いかに居心地の  
いい場所が作れるかどうかにかかっています。  
そのために、建築の間取りや寸法と設備をリンクしながら  
考え、生活に役立つ面白いアイデアを提案していきたい  
と考えています。



いろは設計室  
**橋垣 史子**

1972年千葉県生まれ。  
日本大学理工学部海洋建築工  
学科卒業。加藤武志建築設計  
室に勤務後、2006年「いろは  
設計室」開設。

## 「てまひまのあいま」

家族の時間、自分の時間、ときによっては仕事の時間を家  
で過ごします。テーブルに置かれた花、壁に掛けられた絵、  
料理のしたごしらえ、天日干しの洗濯物…。  
その人なりの価値観で、てまひまかけた潤いのある暮らし  
ができればと思います。てまひまのあいまを包み込む家  
をつくっていききたいです。

しまだ設計室  
**島田 貴史**

1970年大阪生まれ。  
筑波大学で環境デザインを、  
京都工芸繊維大学で建築を  
学ぶ。ブレック研究所にて、  
ランドスケープの設計に従事。  
2008年「しまだ設計室」開設。



にしお設計室  
**西尾 春美**

1960年 東京 練馬区 生まれ。  
大学卒業後、野沢正光建築工房  
など設計事務所勤務の間に、  
JICA 協力隊員としてブータン  
で伝統様式を踏襲した建築の  
設計監理に従事。田中敏博さん  
のもと、住宅設計を学び多くの  
影響を受ける。



## 「家は生活の器」

住まい手にとってどのような家が必要かを常に俯瞰し、  
長期的なスパンで考えたいと思っています。住宅が消費物  
にならず永く愛着をもって住み続けてもらうためには  
あくまで主役は住まい手であって、家は生活や人生を  
手助けする存在であり、やさしく包み込む器であることを  
意識することが重要と考えています。

スネアアキラ建築設計室  
**強谷 陽**

1974年埼玉県生まれ。  
1997年日本大学理工学部建築  
学科卒業。侘寺設計にて住宅及  
び商業建築の計画、設計監理に  
従事。2009年スネアアキラ建築  
設計室を設立、並行してレミング  
ハウスのプロジェクトスタッフと  
して活動中。



## 「ものがたりのある家」

陽だまりの喫茶コーナーのような場所が欲しい。  
庭に水盤をつくってビールを飲みながら涼みたい。  
森の中に住んでいるような感じがいい。  
夫婦の出会いは留学先のカナダでした…。  
リラックスが飾りたい(笑)  
建て主さんの、「なにげない一言」に共感して  
一緒に物語のある家をつくっていききたいです!

## 「住まいと周囲の繋がりを デザインする」

周囲をとりまく五感と住まいを気持ち良く繋げる…  
常日頃からそんなことをイメージしながら家づくりを  
しています。自邸での日々の暮らしに対するおもいが、  
私の住宅設計の基盤となっており、そのおもいを  
ブログに綴っています。  
『雑木林の家から-nishio』  
<http://barunishio.exblog.jp/>

市川設計  
**市川 淳**

1975年福島県生まれ。  
東海大学工学部建築学科卒業  
後、佐々木正明建築都市研究所  
勤務。住宅、集合住宅、店舗等  
設計に従事。ATELIER Yo共同  
設立後、2010年市川設計開設。



ainoha  
— アイバノコトノハ —



特集

その後どのように暮らしていますか？  
「モダンな部屋に和の家具を」

take free  
ご自由にお持ち帰りください

2013 \* October vol.22



## その後どのように暮らしていますか？

### 「モダンな部屋に和の家具を」

M様は二十歳すぎから  
美術関係のお仕事をされており  
ヨーロッパと日本を行ったり来たりしていました。  
そして今でも一年の半分以上をイギリスにある  
住まいで過ごされています。

家づくりではイギリスの家具や様式を取り入れたり  
実家の母屋に昔からある和風の家具を置くなど  
こんな家にしたい！  
という強いこだわりがM様にはありました。

そこで、より个性的な自分の生き方を  
大切にしたい人に適した家づくり  
「建築家と建てる家」  
というスタイルにたどり着いたのです。  
建築家は「small space」の平間千恵子さん。

平間さんとじっくりと時間をかけて話し合い  
自分たちの生活にぴったりと合う  
住まいが完成しました。

ainoha  
- アイバノコトノハ -



vol.22  
2013 October

## もくじ

特集 その後どのように  
暮らしていますか？  
「モダンな部屋に和の家具を」  
(p. 255)

ミズニワハウス  
(p. 657)

いちおしリレー  
(p. 8)

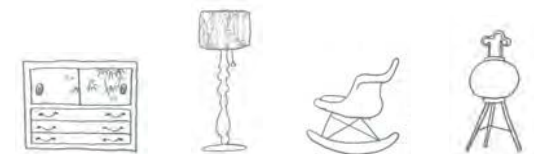
住まい手さんの家バス見学会  
(p. 9)

あいばご通信  
(p. 10511)

イベントピックアップ  
(p. 12)

ainohaのあるお店  
(p. 13)

information  
(p. 14515)





- その後、どのように暮らしてますか? (P.2-5)  
—雑木林の家—
- 住まいづくり (P.6-9)  
—家族みんながリビングに集まる家—
- いちおし!リレー (P.10)
- あいばこ通信 (P.11)
- こども工務店開催 (P.12-13)
- information (P.14-15)

その後  
どのように  
暮らしてますか?  
雑木林の家

ミモザの鮮やかな黄色が、春のやわらかな陽射しを受けてキラキラとまぶしいお庭。

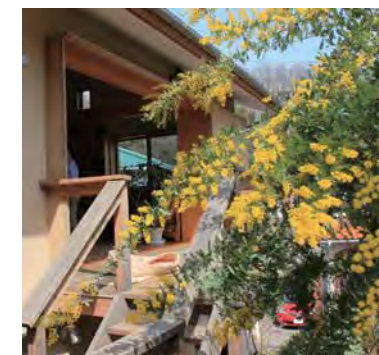
この土地に出会ったときは、辺り一帯雑木林だったという西尾さんのお宅は、傾斜地を活かしたお庭が広がっています。

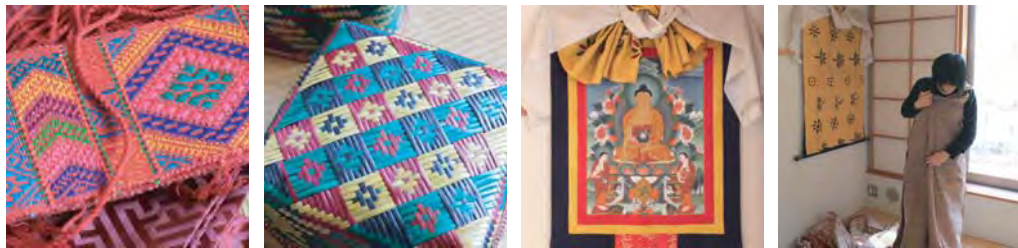
「庭仕事は、趣味というより暮らしの一部」という西尾さんが、日々お手入れを楽しんでいる庭は、先住民のコナラを中心に赤・白・黄・紫、小さな花々が咲き、春があちこちに見つかります。

2階の居間から続く広いウッドデッキは、愛犬ハチくんのお気に入りの場所。

気持ち良さそうにお昼寝中のハチくんを誘われてウッドデッキに出ると、目の前に広がるお庭の話から始まって、ブータンのこと、家具のこと、収納・お料理・暮らしの工夫・・・気さくな西尾さんに、いろいろなお話を聞かせていただきました。

西尾さんのお宅で伺った、楽しい暮らしぶりをご紹介します。





ブータンで出会ったという西尾さんご夫妻。  
家の中にはブータンで買った小物や布、写真などが飾られていました。  
結婚式の写真から話が弾んで、ブータンで購入し日本での結婚式に着た『キラ(女性用)』と『ゴ(男性用)』という民族衣装も見せていただきました。  
シルク糸で施された模様は、年月が経っても鮮やかな色そのまま。  
日本の着物に似ているブータンの衣装を、着て見せて下さいました。



国産のネーブルが出回る時期に、毎年作るといふネーブルマーマレード。  
果肉の粒が残っているジャムをいただくと、マーマレードより苦みが少なく甘さが控えめな、フレッシュなジャムでした。  
西尾さんが試行錯誤して出来上がったネーブルマーマレードのレシピはblogに載っています。  
西尾さんのblog→  
<http://barunishio.exblog.jp/8253502> (2008/2/17の記事)

ネルの布をチクチクと縫い合わせた、西尾さんお手製のコーヒーフィルター。  
最初はネルを1枚で作ったけど、コーヒーが早く落ち過ぎてしまったので、2重にして作り直したら丁度よくなったそう。  
手縫いのステッチがかわいらしいですね。  
西尾さんのblogに作り方が紹介されています。→  
<http://barunishio.exblog.jp/16747068/> (2011/8/19の記事)

足の形が特徴的なセンターテーブルと、ソファ・椅子は引っ越し時に、「森のことば」で買われたもの。お部屋の雰囲気にとっても合っていました。  
「森のことば」飛騨産業さん→  
<http://www.kitutuki.co.jp>



キッチンの窓はお気に入りのひとつ。  
キッチンに立った時に外が眺められるのと、窓の前に付けたステンレスバーが便利に使えるから。下の窓枠だけ人工大理石にしたので、洗ったものをそのままひっかけることもできるんです。こんな風にレシピをはさめるのも便利、と教えていただきました。  
<http://barunishio.exblog.jp/6374022>  
(2007/6/24の記事)

文/相羽美里

実は、ainoha創刊に向けての企画で、家というよりも暮らしぶりにスポットをあてて紹介したいよね、とainohaの方向性を決める参考にしたのが西尾さんのブログでした。  
暮らしを楽しむ様子や知恵がいっぱい紹介されているブログから記事をご紹介します。

#### キッチン 収納



小物の調理器具、スプーン箸など必要な時すぐ出せて簡単に仕舞える…分類のし易さが必要だ。システムキッチンではないので箱までが工務店さんの仕事で中の間仕切りは住人の工夫…ということ。  
引越し間際あらゆる所を探しまくった。¥100ショップ、東急ハンズ、ニトリ…持っていた食器が入った箱などで収納した。  
配膳台側の収納は、基本的に食卓に配膳して出す食器類を収納。なので箸、フォーク、スプーン、ナイフなどを¥100ショップのトレーで分別。



キッチン側の収納は、鍋、フライパン、ボウル、タッパー、調味料など調理に必要な物を収納。  
なので包丁、計量スプーン、ハサミ、もろもろひとつの引き出しに。包丁ホルダーは、ハンズ製。ハサミ等が入っているトレーはニトリで購入。



スパイスワゴン。だしっぱの私としては、レンジ横に棚を作って収納することも考えたが、、スパイス自体に油が飛ぶ。…棚自体や油のついたスパイスのピンをきれいに、まめに掃除できないと思い止めました。調理の時ワゴンごと引き出して使います。

西尾さんのブログ「雑木林の庭から-nishio」より一部抜粋  
2007/7/2の記事 <http://barunishio.exblog.jp/6399203>

紹介しきれなかった取材の様子は相羽建設のブログでもご紹介中です!→「ainoha」で検索  
あいばこ・青葉町モデルハウスに写真集もありますのでお気軽にお立ち寄りください。

特集

その後、どのように暮らしていますか？

「雑木林の家」

住まいづくり

「家族みんながリビングに集まる家」



### M様のお家に伺うと

モダンな雰囲気の中に、どこかホッとするような不思議な感覚に。  
取材をさせて頂くうちに、それは昔ながらの和家具や木材が  
お家の所々に活かされているからだと感じました。

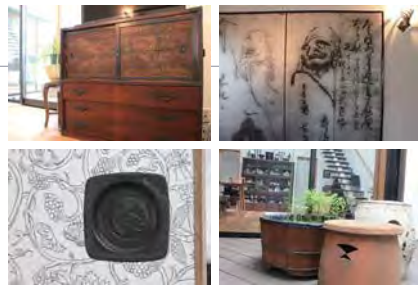


奥様の実家は、今お住まいの家と同じ敷地内に  
ありました。実家の母屋を取り壊し、新しく家を  
建てる際に、母屋にあるものを活かしながらの  
住まいづくりをしようと考えられたのだそうです。

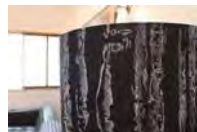
母屋の家具はこのように使われていました。



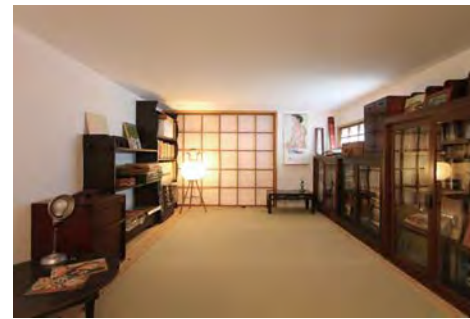
母屋の家具、屏風、窓枠、襖の引手などがお家の  
ところどころに使われていました。古い家具達は  
ご主人によって磨かれ、大切にされています。



奥さまのおじい様が創作された  
藍染の浴衣生地。それをご主人  
がフロアランプとしてデザイン。



お庭はなるべく以前のままでの状態を保ちつつ、  
母屋の瓦や灯籠、火鉢などを利用してご主人と  
奥さまの二人でデザインしたそうです！  
瓦は花壇などの仕切りになっていました。



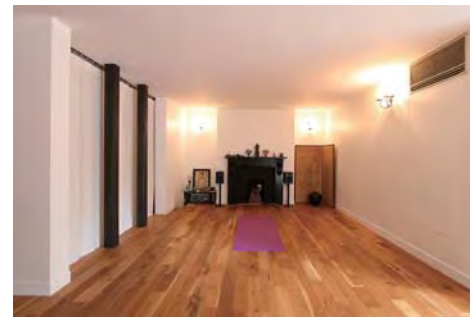
### ロフト

しっとりとした雰囲気の和室ロフトには母屋  
から持ってきた家具と本。奥さまのお母様が  
モデルのカレンダーもあり、思い出を大切に  
されている様子が伝わってきました。



### 2階

外からの光で自然な明るさの2階リビング。  
床材はイギリスから仕入れたオーク。色々な  
色味が合わさってますね。奥さまいわく、床は  
色がそろっているよりバラバラの方が面白い！  
ということで大工さんにモザイク模様  
にもらったのだそうです。



### 1階

1階はギャラリースペース。当初はカフェ  
にする予定でしたが、広い空間を利用して  
お友達とヨガやピラティスのレッスンを  
楽しんでいるそうです。こんなに広い趣味の  
空間があったら色々なことができそうですね！



家づくりの一つひとつにこだわりのあるM様のお話、  
とても楽しかったです。取材させて頂きありがとうございました！

文/広報 吉川

掲載しきれなかった取材後記はブログで紹介中です。

ainohablog <http://ameblo.jp/ainohablog/theme-10071745176.html>  
small space <http://small-space.jimdo.com/>



ainohablog